

にちにち通信

Monthly newsletter

Vol.13

その行動、“その子のせい”じゃないかもしれない

～言葉や行動の背景にも「環境」を見てみよう～

最近、「うちの子、すぐ人のせいにする…」「言い訳が多くて困る」というご相談が増えています。つい“他責な子”とってしまうかもしれませんが、ここで一つ知ってほしいことがあります。

ABAは、「その子のせい」にしません。

にちにちが大切にしている応用行動分析学（ABA）では、子どもの困った言動や、他責・自分を責めるような発言も、「性格」ではなく“行動”として捉えます。言葉も「言語行動」という行動の一種です。そして行動はすべて、その前後の環境との関わりのなかで起きています。

じゃあ、“他責っぽい言葉”はなぜ出るの？

たとえば、「ママが言わなかったからできなかった」「ぼく悪くない！あの子が…！」こうした言葉にも、実は「子どもにとっての目的（＝機能）」があります。

- ・叱られたくない
- ・難しい課題から逃げたい
- ・注目してほしい
- ・気持ちをうまく整理できない

つまり、子どもはその時々に合わせて自分を守るために“今できるやり方”を使っているだけ。「性格が悪いから」「他責なタイプだから」ではないのです。

どう関わればいいのか？

① 言葉の前後を観察してみる

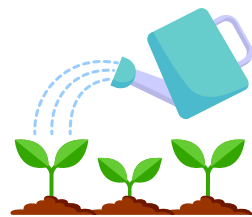
責める前に、「どんな時に言いやすいか」を冷静に観察する。

② 「安心感」を伝える土台をつくる

気持ちが落ち着いている時にたくさん対話すること。「あなたは十分頑張っているよ」「困ったときは一緒に考えるよ！」というメッセージを日々伝える。

③ 代わりになる“より良い言葉”を育てる

たとえば、「手伝ってほしい」「できなくて悔しい」「どうしたらいい？」といった、伝えたい機能は同じだけど、より良い形の言葉が出たときが大チャンスです。その瞬間をすかさず強化することが大切！「良い形で伝えると言言葉がちゃんと届く」という体験を重ねることで、子どもの言葉の選び方が変わっていきます。



最後に・・・

私と一緒に「他責な子」という見方を、今日で卒業しませんか？

目の前にいるのは、「その歳で、その環境で、最善を尽くしている子ども」だけです。行動も言葉も、環境が変わると変わります。そしてその環境は、親子で一緒に整えていくことができます。今年一年、お子さんの頑張りと、なによりあなた自身の歩みを、どうか大切にしていってくださいね。今年もにちにち通信を見てくださりありがとうございました。

